



盾形銅鏡背面\*

国内最大の円墳・  
奈良富雄丸山古墳で国宝級の  
だりゅうもん

# 鼉龍文盾形銅鏡発見！



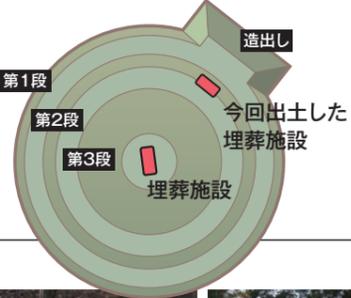
富雄丸山古墳を望む

近鉄奈良線大和西大寺駅から車を駆ること20分。住宅と田園が交錯する地帯の真ん中にそれはある。言われなければ、誰も気づかないこんもりと繁った小丘陵。どこにでもありそうな小山である。これが富雄丸山古墳——ここから世紀の大発見！これまで見たこともない大きな盾形の銅鏡と蛇のように曲がりくねった大型の鉄剣が見つかった。国宝級とも言われる遺物の発見である。



富雄丸山古墳と造出し粘土塚\*

## ■富雄丸山古墳

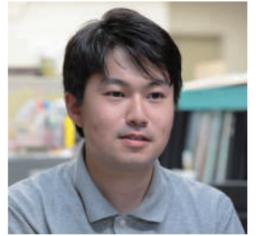


## ■盾形銅鏡の成分

| Fe   | Ni | Cu   | As   | Sn    | Sb   | Pb   | Bi   |
|------|----|------|------|-------|------|------|------|
| 1.35 | —  | 8.34 | 1.72 | 79.76 | 0.51 | 7.11 | 0.46 |

携帯型蛍光X線分析装置による表面分析。銅鏡表面金属露出部2箇所の計測値の平均値 単位:wt% —:検出限界以下

## 「見たこともない鼉龍文盾形銅鏡と 大型蛇行剣の出土にビックリ！」



奈良市教育委員会教育部  
文化財課埋蔵文化財調査センター  
山口等悟氏

富雄丸山古墳は、1972年に奈良県教育委員会が発掘を開始、以降奈良市教育委員会が数次にわたる調査をつづけ、2017年には航空レーザー測量、2018年からは発掘調査を行い、古墳の端に造出し部という飛び出た部分を持つ直径10.9m、4世紀後半に築造された日本最大の円墳であることが判明した。

2022年度の10月～2月に行われた第6次発掘調査では、造出し部に長さ7.4m、幅約3m、深さ約1mの長方形の墓坑が作られ、その中に長さ6.4m、幅約1.2mの



出土した際の蛇行剣\*



すずむ発掘調査\*



奈良県立橿原考古学研究所  
企画学芸部資料課 主任研究員  
河崎衣美氏

員(博士)河崎衣美氏は口を揃えて言われる。

——盾形銅鏡は、考古学的には、文様形態から国産だと考えられます。しかも、

圧倒されました。銅鏡は背面中央部には「鈕」と呼ばれる突起がついており、その上下には鼉龍文が入り、同じ時代の鏡に特徴的な神や獣などの文様が円を描くようにあしらわれています。実用というより、呪術、魔除けとして宗教的に使われたものだと思います。この文様と形から見て国内で作られた日本独自の倭鏡だと思われま——

## 「すぐれた古代の冶金技術・工芸技術」



奈良県立橿原考古学研究所  
企画学芸部資料課 総括研究員  
奥山誠義氏

現在、盾形銅鏡と蛇行剣の分析に当たる奈良県立橿原考古学研究所企画学芸部資料課総括研究員(博士)奥山誠義氏と主任研究



出土した際の盾形銅鏡\*

た超大型の鉄剣「蛇行剣」が出土、さらにその直下から精緻な文様が施された「大型の盾形銅鏡」が出土したのである。

銅鏡は長さ64cm、最大幅31cm、最大厚さ0.5cmの青銅製。盾の形をした背面に中国鏡の神像と獣像の表現が崩れて融合した独自の表現図像である「鼉龍文」を上下に2つ施し、その間には「鈕」と呼ばれるヒモをかけると思われる突起状のつまみが作られている。前例のない斬新なデザインで、「鼉龍文盾形銅鏡」と命名された。そのほか、さまざま描かれたのこぎり型の鋸歯文や太陽のような文様もあり、盾と鏡を融合させた古墳時代のアートの傑作と言っても過言ではない。銅鏡は通常円形で盾形のものはないが、国内出土品では最大級の青銅鏡である。蛇行剣も長さ267cmに及び、これまた鉄剣では国内最大のもの。発掘に当たった奈良市教育委員会教育部文化財課埋蔵文化財調査センター 山口等悟氏は言われる。

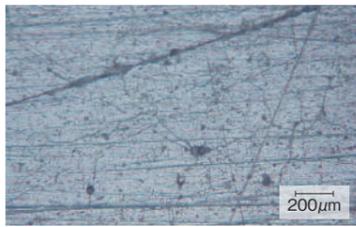
——とにかく銅鏡と蛇行剣が出土したときにはビックリしました。これまでに例がない形と大きさとデザインに



背面文様(X線透過画像)。  
鈕を中心に上下に鼉龍文が見られる。\*



盾形銅鏡表面(鏡面)\*



鏡面金属露出部のキズ 幅は約1~2μm\*\*

この鏡は铸造です。あんなに大きく、しかも薄い鏡を铸造んで作っているのですから、それはかなり高い技術力です。X線透過画像で観察すると、あちこちに铸造の際に生じる「巣」が見られます。文様はすべて铸造で作ったもの。デジタルマイクロスコop等による分析ですが鏡面にたくさんキズが見られます。このキズは幅がほぼ同等で、複数本が平行し、規則性を持つ方向に走っています。これは鏡を磨いた跡と思われる。意識的に磨いていたんですね。また、成分分析結果によると、他古墳から出土した銅鏡と比較してほぼ変りない組成を示したことから、銅鏡であると判断しました。さらに蛇行剣の柄と思われる部分には漆の装飾を施した痕跡がありました——

日本の古墳は見つかるだけで16万基あると言います。九州から北海道にまで広がっている。そのひとつひとつに時代のドラマが刻まれ、時々のテクノロジーが詰め込まれているに違いない。そこには16万通りの物語りがあ